日刊
動労千葉
86. 12. 19
No. 2435
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

部財界ボスが国鉄"資産"を分捕り さんざん喰いものにしてきたあげくに……

こんなこと言えるか！

労働組合解体―差別・賃金・低賃金 合理化―首切りの「設立委員会」

設立委員会は、十二月十一日、第一回会合を開き「新会社」での職員採用の基準なるものを発表し、さらに十九日には労働条件を決定するという。そこでは設立委員会が「在勤中の勤務成績」なるものを一方的に判定し、大量首切りの差別・選別の結果を文句いわずに呑め、あげくに労働条件も勝手に決めてそれに従え、嫌なら来るなという。ここに分割・民営化の敵の狙いのすべてがある。こんなヤリ方にどうして黙って従えようか。断じて否である。

いずれも国鉄を食いものに肥え太ってきた設立委員

第一回会合で、委員長に経団連会長・斉藤英四郎、委員長代理に国鉄再建監理委員長・亀井正夫が選ばれ、新会社の採用基準、労働条件について協議したという。

そもそも委員長・斉藤や、代理・亀井らは、国鉄を食いものに肥え太ってきた財界のボスどもであり、亀井に至っては国鉄に年間数十億円もの電線などを納入している住友電工の会長であり、亀井のグループである住友電工・住友建設・住友金属・日本電気四社で八三年には国鉄から一六〇億円の発注を受け、しかも、再建監理委の委員長になってから電線など資材納入額は急増した。また、住友不動産は、国鉄用地の分捕り合戦に加わり分割・民営化によって　ほしいままに、うまい汁を吸いあげようというのだ。

「労働組合」自ら 低賃金 合理化・首切り、労働強化の地獄へ

「改革労協」頭目の鉄労・志摩は「新会社移行の一年間は現行のままの賃金・労働条件を」などと要求した。設立委員会は「振りわけにも支障がでるので当初（一年間）基本給は現行水準を保障」などといずれは賃金低下を示さし、そればかりか「私鉄より多い諸手当のカットも検討」といっている。

さらに、設立委員会は「新会社にふさわしい者」といいなし、労働者を差別・選別しようとしている。「新会社」は、労働運動を圧殺し、労働組合すら認めない。あるのは自己保身のためには労働者の首をも売り渡す「組合幹部」ひきいる御用・マル生組合だけにしようとしている。

日の丸をかかげ 労使協調で 共産主義と対決する「新組合」

志摩いわく、「毎年春、賃上げを要求し、応じなければストを打つような労働運動はやめたい」の言葉にあからさまに示されている。動労・松崎、志摩らの「鉄道労連」とは、労働者の権利を守る労働組合ではなく資本・当局の代弁者に牛耳られた産業報国会だ。労働組合の死の次には戦争への道しかない。

国鉄新会社　トップ人事

亀井再建監理委員長が最有力 東日本

亀井正夫氏

東日本会社は、亀井正夫国鉄再建監理委員長（住友電工会長）が、臨調以来取り組んでいるナリオ（昨杉浦氏、横すべりか清算事業団見）をまとめ最有力になっ…も、住友…に対する見…評価されている。

本命は宮崎 旭化成会長 西日本

二宅 東海銀前会長 に固まる 東海

杉浦高也氏

巨象に群らがるハイエナども